



平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成31年4月18日(木)、小学6年生と中学3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

これまでの調査との違い

- 問題内容を「A知識型」や「B活用型」に分けず、両者一体型の問題形式となった。
- 今回から中学3年では「英語」調査が実施された。特に「話すこと」については、生徒がマイク付ヘッドホンをつけ、パソコンに向かって話しながら回答する形式で行われた。
- 今回の中学3年の英語における「話すこと」調査は、全国全ての学校で実施していないため【参考値】としての公表となる。

1 学力調査結果【本町平均、地区平均、県平均、全国平均】

※ 数字は正答率(%)。「↑」は、全国平均を上回り、「↑」は地区平均を上回ったもの。

		国語	算数
小学6年	大崎町平均	64 ↑	64 ↑
	大隅地区平均	64	63
	鹿児島県平均	66	65
	全国平均	63.8	66.6

		国語	数学	英語
中学3年	大崎町平均	67	52	50 ↑
	大隅地区平均	67	53	49
	鹿児島県平均	70	57	53
	全国平均	72.8	59.8	56.0

【参考値】英語〔話すこと〕	
大崎町平均	1.6問/5問 ↑↑
大隅地区平均	—
鹿児島県平均	1.5問/5問
全国平均	1.5問/5問

(1) 【学力調査結果考察】

ア 小学6年生

国語では、全国平均と比較して若干高い結果となり、学力向上に向けて改善の兆しが見られます。これは、県全体についても同様のことが伺えます。また、算数は地区平均を上回ったものの、県や全国平均には届きませんでした。

イ 中学3年生

鹿児島県は、依然として全ての教科で全国平均を下回る厳しい状況が続いています。このような中、本町では地区平均で見ると、英語が上回っているものの、国語が同水準、数学は下回る結果となりました。

ウ 学力調査結果全体から

問われていることについて、記号から選択する問題については、正答率が高いものの、条件を踏まえながら筋道を立てて説明することに苦手意識をもっている子どもが多く、授業改善して理解を深める必要があります。

本町では、これまで小中学校が連携し、情報交換や授業参観を継続してきました。

今後も、町内各校の連携を図りながら、授業力の向上に一層努めていきます。